

生態学的心理学 (Ecological Psychology) の方法の試行

細 江 達 郎*・田 名 場 美 雪**

はじめに

生態学的心理学という分野やその方法は、最近の Ecology ブームによって出来上がったものではない。また、Gibsonian の生態学的な知覚論を示すものでもない¹⁾。ここで取り扱う生態学的心理学は、R. G. Barker によって始められた観察法を主たる手法による社会心理学の独特な研究方法である。1947 年任地 Kansas 大学の近くの Oskaloosa の町に設置された Midwest Psychological Field Station で始められたこの方法にもとづく研究は主著 Ecological Psychology (1968) としてまとめられている²⁾。このような長期にわたる³⁾実験室外での研究は、様々な批判がなされている現代の社会心理学に多くの示唆を含むものである⁴⁾。しかし、こうした長期の実際の調査の困難さがその普及を妨げており、我が国においても必ずしも知られた方法とはいえない。Wicker, A. W. (1979a) の解説書は好適な入門書であり、また最近我が国の Barker 紹介の一人者である安藤延男氏により訳書が刊行された (1994) こともあり、我が国でもこの方法が再認識されるものと予想される。本論はこの方法を Barker や Wicker (1979 ab) によりながら概観し、筆者の関連でこの方法に係わりながら実施してきた調査を 2, 3 紹介し、その経験からこの方法の意義と問題点をみてゆく。

1 生態学的心理学と観察法

人間を含む有機体を対象とする各種生態学は Wicker (1979a) によれば共通な想定を持っているといえる。それは、①有機体は孤立して存在し活動するとは考えられない、②有機体は有

*岩手大学人文社会科学部 **東北大学文学研究科

- 1) もっとも、Gibson の、環境は人によって加工される刺激素材ではなく、観察者自身を含めてそれ自体意味を持つ情報の存在するところであるとする生態学的認識論は Gestalt 心理学からの発展であり、その学史的起源は同じといえる。(Gibson 1979 および佐々木 1994 による。) なお、このことは後述の心理学者の二つの立場 Operator, Transducer にも係わる。
- 2) 1968 年の報告では Oskaloosa の町は "Midwest" という仮名で紹介されている。
- 3) 1972 年に Station は閉鎖されている。
- 4) 社会心理学への批判は現在まで多く続けられているが (三井 1986 の展望や Stephan et al ed. 1991 の諸論文参照)、それらは、心理学的社会心理学と社会学的社会心理学の分離、理論の些末さ・総合理論の欠如といった原理的なものと実験室実験の倫理性、対象の限定性、人為性、非日常性といった方法的な問題とに及んでいる。現在も続く論議の中で、Argyle (1992) は最近の社会心理学研究が現実離れをして退屈になったとして、自ら、日常生活の具体的な問題を取りあつかう社会心理学を提唱している。これは帰属理論の非日常性に疑問をもって Lay Thories (しろうと理論) を著した Furnham (1988) においても見られる主張でもある。

機体内部の力とともに、外的な力によって影響される、③有機体は自分をとりまく環境と調和のとれた関係を達成する方法で活動する、といったものである。さらにその研究方法上の共通点は自然観察法を中心としたものである。主体とそれをとりまく関係性を綿密な観察に基づき発見するものであり、原則として置かれた環境から個体をとりだしたり、操作を加えたりすることをせず、まさにそのままの状態に接近しようとするのである。多くの心理学・社会心理学研究で一般的である実験室実験、質問紙法、心理テスト等の手法は被験者に実験・調査状況を意識させ、要求特性などの実験者変数を避けることができないといった批判への一つの解決法でもある⁵⁾。非影響的測定法 (unobtrusive measures) といわれる方法は、観察法の他、様々な文書 (Archives) の利用や物理的な証拠の使用など、対象者に調査場面に直面していることを自覚させないで、その当該行動にかかわる心的所産を調査することの必要性から考案されたものである⁶⁾。社会心理学の研究においてはこの手法はさらに取り入れられる必要がある。Barker (1965) はデータ収集システムでの心理学者の係わりには図1・図2に示すような二つのタイプがあるとしている。心理学はどのような分野であれ、有機体が環境からの刺激とかかわり、それを内的な処理にもとづき、再び環境にかかわる過程：環境—有機体—環境 arc の連続体の何れかに位置づけられるとして、この心理学的な単位に心理学者が伝達者 (transducer)

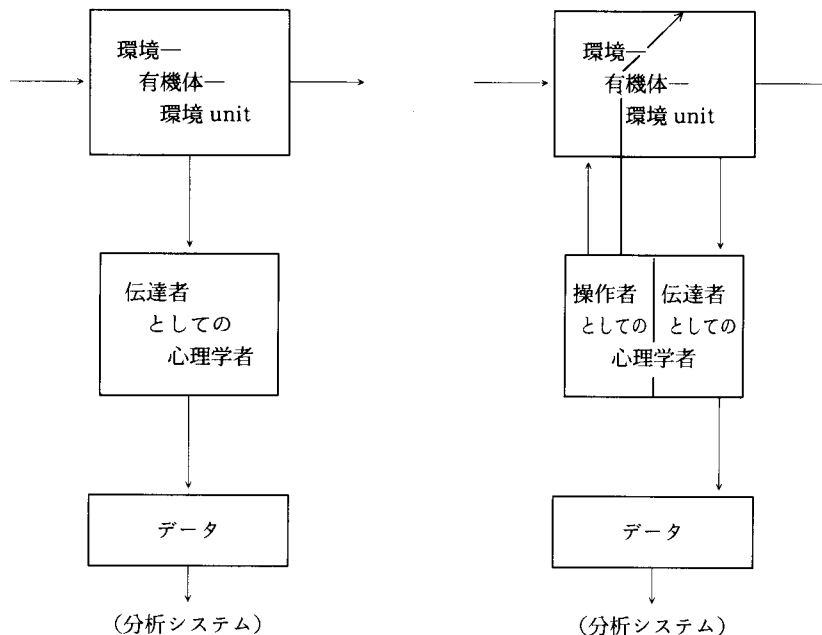


図1 タイプ1：伝達者としての心理学者

図2 タイプ2：操作者と伝達者としての心理学者

5) 一般に心理学のデータ収集はその科学性を標榜するため客観性が問題となる。つまりだれが対象者に接してもマニュアルに従えば結果は同様になることが期待される。実験者変数などがこの点から問題になる。しかし、現実には多くの心理学のデータは研究者と対象者 (被験者) との社会行動の産物である。これは面接を伴うもの、質問紙調査等では特にそうであるが、こういった方法に限られる問題ではない。心理学のデータはこうした過程でできあがることをより積極的に認めていくことも必要である。フィールドリサーチではこうした問題は日常的なことである (細江 1983ab 参照)。

6) 博物館の展示品の人気は入館者への質問紙ではバイアスがかかるので、展示品の周囲の床タイルの磨耗率・交換率の測定が有効かもしれない (Webb et al. 1966)。

としてかわるか操作者 (operator) としてかわるかがこのタイプを区別することになる。

一般の実験室実験や、知能検査の実施など心理学の多くの方法はE—O—E arcつまり被験者に操作者として働きかけ、状況を設定し、それに対する反応を求めるのであり、タイプ2の方法をとる。Barkerは自ら関係したフラストレーションの研究を通して、実験室で得られた結果と日常場面で経験するフラストレーションとの差異が大きいことから操作者としての心理学の問題点を指摘している。またMidwestでの子供の綿密な観察を通して、刺激入力に反応するのは多くて半数に過ぎないこともあきらかにした。このことは刺激を実験者が意図的に操作する実験室実験においては本来特に問題とされるべきことであろう。自然のままの状態で生起する行動をとらえようとするとき、こうした操作者ではなく現実の状況のなかで発生しうる行動を全体的文脈のなかにありのままに位置付けて観察する伝達者の立ち場が必要なのである。環境心理学者の研究視点の多くもこういった方法に親近観をもつ (Mercer 1975, Moos 1976)。こうしたフィールドリサーチや自然的な方法は概ね実験の変数を探る探索的なものか予備的手法とみられ、洗練されたものとしては評価されない傾向があったことは否定できない。本来基本的な手法として重用されるべき社会学でもこの種の方法が「ロストアート」とされてきたことをみれば、こうした風潮がみられることは心理学において不思議とはいえない。しかし、社会科学のさまざまな分野で「フィールドワーク・ルネッサンス」とよばれる状況となっている現在⁷⁾、また特に社会心理学の非日常性批判への反省からこうした観察法等の方法は再評価されるべきである。

2 生態学的心理学と環境

Lewin (1943) の心理学的生態学の考えが、Barkerの発展した生態学的心理学のもとになっていることはよく知られたことであるが、彼は、(1)生活空間としての心理学的環境、(2)物理的又は社会的世界の多数の過程、それらはそのときの個体の生活空間には影響しない、(3)生活空間の境界地帯、すなわち物理的又は社会的世界のある部分は、その時の生活空間の状態に影響をあたえらるるとし、この心理学的要因と非心理学的要因の関係を取り組む必要を指摘した。生活空間論が中心であったLewinがその示唆を十分展開しなかったこの行動的環境を綿密な観察法によりBarkerは体系づけを行ったのである。

心理学は基本的に個人としての人の特徴、個人の内部で生じる過程を重視する傾向をもつ学問であり、環境とか状況は不安定で無秩序なものであるのもので、もし取り扱うとするとしても環境を直接対象としないで行動と経験の直接の主体である人を通して間接的に見ることになる。つまり、心理学は環境や外部刺激の解釈の多様性個別性を主張するところに存在意義をもっていることになる。しかし、状況の過少評価つまり個人的属性の過度の評価は人の基本的帰属錯誤であり (Heider 1958, Ross 1977)、人が状況をこえてそれほど一貫性があるという証拠は見受けられない (Mischel 1968) という主張は、こういった伝統的な心理学の視点に転換を迫ってきた。自我関与とか準拠枠 (準拠集団) という考え方は心理学的な視点をよくあらわすが、その場合関与し、準拠する環境 (集団) は混沌としており、直接接触する環境 (例えば教室) から、その外の町、さらには国あるいは地球が心理学的世界では未分化に取り囲み、その重みづけは個人の選択に依存するとされる。しかし、生態学的心理学では生理的システムを人間の

7) 最近のフィールドワークの復権に関しては佐藤郁哉 (1992) の好著に詳しい。

システムが取り囲み、それが教室（具体的な行動の場である）のシステムを取り囲み、さらにそれを地域のシステムが取り囲み、さらにそれを国のシステムが取り囲むという入れ子構造（Nesting arrangement）になっていると考えるのである（Barker 1968 Wicker 1979a）。そして、この内と外のシステムはそれぞれそれぞれ拘束しあうことになる。つまり、行為者の側からみる心理学的世界とそれを取り囲む環境は独立し区分されたものではなく、相互依存的であるのである。そしてこういった入れ子構造である環境の中でも、個々の人の活動はより大きな環境（教室外の）で生じている出来事よりも直接取り囲まれている環境（教室内）の出来事に先ず強く結び付けられるのである。外的に規制されるとか外的世界に依存する観点は社会科学では一般的であるが、その場合使用される概念は役割期待、規範、あるいは文化といった概念である。しかし、この概念は物的環境を直接想定しているわけではない。もちろん人が物的環境に単に規定されると主張する環境主義は社会的心理的入力を見無視している。Barker らの視点は非人間的構成要素と人間的構成要素を包括した Behavior settings（行動セッティング）⁸⁾の枠組みにより両者の相互規制関係を巧みにとらえたものである。行為者の側からみれば多様で不安定な環境も行為者である人間的構成要素との係りを行為者である当事者でない観察者の立ち場から見ると、そこに一定の規則性を見出すことができると考えているのである。次にこの理論の中心となる行動セッティングについて見てみる。

3 行動セッティングの理論

先ず行動セッティングは直感や思索や推測によって想定された仮説的抽象的な概念ではなく、現実的実体的なものであり直接経験されるものであることが強調されよう。それは、特定の場所・時間・範囲が限定されたところで行われる一連の相互作用なのである。そして行動セッティングは前述したように人間的構成要素と非人間的構成要素の二つを包含したものである。つまり教室であれば教師・生徒と壁・黒板・教壇・机・椅子といったものの両者を包含している。また、これはおおむね外壁などに取りかこまれているとしているがこの取りかこまれ方は微妙である。後述する我々の調査ではその境界線はある場所におかれた移動可能な眼鏡であったりする。工場とか教室、学校を単位とした場合、外壁は境界となりうるが後に示すような多様なレベルにおいてはその囲む境界の質はそれぞれ異となる。この行動セッティングにいる人の行動には少なくとも一つ以上の一定の行動パターン（standing pattern：定立型）がある。この定立型ということから、これは個人の行動に関するものではなく、人が変わっても基本的に同じ行動があらわれることになるのである。そしてこの人間的構成要素の示す定立型とそれに対応する非人間的要素は類似形態的（synomorphic）なのである。つまり先生と教卓は同じように生徒に向き、生徒と机は前を向いているのである。さて、この人間的構成要素と非人間的構成要素とのセット、つまり行動セッティングは多様なレベルで設定できるのである。それは教室のようなレベルから学校全体、さらには地域社会、国などのレベルでも設定することは可能である。また教室より内側のレベルの机の上とそこに係わる手や腕の動き、さらには机上のワープロと指の動きのレベルまでも想定できるのである。これらのどのレベルにおいても類似形態的の調和が求められるが、この不調和にはさまざまな対応、つまり自己調整が行

8) Behavior settings は行動場面と訳される場合があるがここでは行動セッティングとした。なお表中で BS と表現する場合もある。

われることになる。それはワープロ打ちとワープロのキー配列、身長と机の高さ、さらには教育需要と学校の配置、人口変化と都市の開発などのさまざまなレベルに対応する。人口増加は宅地の増加を促し、宅地造成は移住者の流入を生じさせる。このように行動セッティングは自己調整的 (self-regulating) ・能動的システムなのである。プログラム遂行に必要な人と素材がその行動セッティングに引き込まれ、活動のための課題を課せられる。一方人が行動セッティングに目的をもって能動的に入る場合も当然ありうる。つまりその行動セッティングが提供するであろう満足や目標を求めて参加加入するのである。行動セッティングがそれを満足させない場合、修正を求め、さらにそれが不可能ならばそこから出て行くし、目的が達成されてしまえば、他の目標設定のために、その行動セッティングを修正するかあるいはそこから出ていくことになる。また目標達成を破壊させる構成要素は修正・拒絶・排除される。人は注意され再訓練され、排除され、入れ替えさせられる。物は修理され、廃棄され、取り替えられる。行動セッティング内の構成要素が類似形態的であり、その相互の結びつきが強だけでなく、その行動セッティング内の他の諸構成要素間の相互の依存、密接な関連は、他の行動セッティングとの間よりも強い。その構成要素相互が外見上又は機能上上がっていてもその関連性が強いのである。教室での学生の行動は、他の行動セッティングである彼が所属するサークルに関する活動に結びつけられるよりも教室内の他の要素と調和し、全体性一貫性を保っているのである。人格の通状況の一貫性はここでは十分支持されないことになる。さて上述のように行動セッティング内では本質的な仕事がカバーされている限り、人は交換可能な要素であるが、規則化したパターンが変更になった時にはその対処は簡単ではない。また、行動セッティング内にいる人々の立場についてはそこでの影響と責任において順位づけることができる。さらに行動セッティングのプログラムを遂行する為の人数の過不足が関係する行動に影響を及ぼす。これらは人員配置理論 (Manning Theory) としてまとめられている。

4 人員配置理論 (Manning Theory)

人員配置理論とはある行動セッティングを維持し、そのプログラムを遂行するために最小限必要とする人数とその行動セッティングに収容できる人数の最大限の容量、その行動セッティングに加わりたいと思ってその資格を認められた人の総数の過不足によって行動セッティングに参加する人々の行動が予測できるとするものである。候補者数が行動セッティング維持のための最小限よりも少ない場合は人手不足 (undermanning) の行動セッティング、候補者数が行動セッティング維持の最小限と容量との間のどこかに位置する場合は適度な人員 (optimal manning) の行動セッティング、行動セッティングが容量以上の候補者を抱えている場合、人手過剰 (overmanning) の行動セッティングとなる。Barker & Gump (1964) は人手不足と適度な人員の行動セッティングを比較している。それによると、人手不足のセッティングにいる人は、適度な人員のセッティングにいる人に比べて以下のような特徴があるとしている。セッティングプログラムを実行するための活動が、より頻繁で活発で多様である。セッティングへの脅威に対処する活動が、より頻繁で活発で多様である。セッティングの他の人の不適切な行動を正したり方向づけるための活動がより活発である。行動が不適切な他の人をセッティングから削除したり排除するための活動が頻繁でない。セッティングへの脅威に対処するための援助を他者から引き出す活動がより活発である。また人手不足セッティングの人は適度な人員のセッティングの人よりも以下のことを頻繁に行う。責任ある地位を務める。自分にとって

困難な活動に従事する。セッティングにとって重要な活動に従事する。幅広い種類の活動に従事する。他者の重要な活動に対応して活動する。また、人手不足の行動セッティングの人は適度な人員の行動セッティングの人よりも、次のような傾向があるとしている。自分自身をセッティングにとって重要であるとみなす。セッティングに対して大きな責任を感じる。セッティングの運命に関して不安を感じる。セッティングを支えるために熱心に働く。自分を多種多様な人間であると感じる。人間の個人差に対する感受性が少なく、価値をあまり置かない。自分自身や他者を行っている仕事という観点から考え、パーソナリティの特徴という観点からはあまり考えない。一般的には大規模→人手過剰→遂行量少→関与・挑戦欠如、小規模→人手不足→遂行量大→関与・挑戦の経験となる (Wicker 1968)。学校規模の増大と行動セッティングの増加が対応せず、それが参加者の行動に影響することは日常的にも十分了解できる⁹⁾。

また、ある地域社会があたえる行動セッティングの数の多寡はその地域社会の環境が人々に与える行動の機会をあらわし、その比較により特定地域社会の時代による機会の変貌や、同様な地域社会の比較が可能である。Barker (1968) は Midwest とイギリス Yorkshire 州の Yoredale を比較して Midwest の住民が 430 人少なく (Yoredale は 1,310 人)、人々は行動セッティングに多くの時間を費やし、責任あるポジション数も多く請け負っているとしている。こういった問題を Barker は地域生活の質といった観点でとりあつかっている。この視点は地域社会の活性化や福祉施策の立案にも有効なものと思われる。

5 自己制御 (Self-regulating) の過程

行動セッティングは上述のように自己制御のシステムを持っている。この過程は感受メカニズム (sensing mechanism)、執行メカニズム (executive mechanism)、維持メカニズム (maintenance mechanism) からなり、この三つのメカニズムを通った結果は最初の感受メカニズムにフィードバックされ、効果があるまで繰り返されるのが一般的である。まず、感受メカニズムは行動セッティングのできごとや情報を受け取ることになる。人は一般に目や耳を通し、また機械はセンサーを通してこれを行う。次に、執行メカニズムはその情報にもとづき行動セッティングにとっての適切性 (ふさわしいかどうか、許容されるかどうか、脅威であるかどうか等々) の判断を行う。大部分の出来事は容認可能で適切性の範囲にあるが、それが脅威であり、容認できない場合に維持メカニズムが起動される。これには脅威に対抗し、これを修正・調整する逸脱対抗メカニズム (deviation-counteracting mechanism) とそのような脅威を引き起こす人や物的要素を退場させ、取り替える拒否メカニズム (vetoing mechanism) の二種類ある。この過程は常に規則的に展開するわけではない。感受メカニズムは同じ情報に敏感なものから鈍感なものまで、さらには感受しない場合さえある。執行メカニズムにおいても、許容できないとする範囲の認定は必ずしも一定ではない。許容範囲の判断水準は変化するし、他の要素との関係や本質的な機能との関係から相対的に判断されることもある。維持メカニズムは、丁寧な注意から強い指導さらには強制力を伴うものまで多様で、それは一般に段階的に行われる。このメカニズムは責任ある一人のみによって行われるわけではない。実際には構成

9) この点に関しては高校規模とサークル数について我々も調査したが (千葉信也 1990 グループサイズに関する一研究: 岩手大学人文社会科学部行動科学研究室特殊実験調査報告 [筆者細江指導], その増加量との対応関係は通減的であった。例えば対象 4 学校では生徒数/サークル数は小規模から 22.5 → 30.8 → 26.8 → 61.8 となっておりそれに応じてサークルの階層性、満足度に差異が見られた。

要素それぞれ相互の注意や改善が行われる。こうした過程は教室で私語をする学生に対する行動セッティング内での処理過程を想起すれば容易に理解できるであろう。このメカニズムの過程の効力が働かなくなるか、改善困難の場合は行動セッティングからの自発的脱退が起きたり、一時的又は永続的にその行動セッティングがなくなることになる。

このように、行動セッティングは常に安定しているものではない。そこに存在する人及び物の事態の状態により変化する。さらに自己制御システムの作動においても多様性がある。また人及び物の事態もその能力差に応じ、適応・非適応さらには訓練・再適応の可能性に差異がでてくるし、変化する事態での自己制御システムへの関与の程度により特定行動セッティング内での責任性や役割の差異をみることもできるのである。

6 行動セッティング理論の効用

この理論は現在の社会心理学の調査理論に比較して多くの効用がある。先ず上げられるものは現実問題の解決への寄与という傾向が強いことである。もちろん社会心理学理論は Lewin 以来本来現実問題への対応は主要な関心事であるが、前述したように昨今の社会心理学の非日常性批判はこうした対応への弱さの指摘でもある。行動セッティング理論の効用は人の欲求・不安・動機一般を取り扱うのではなく、特定の内容と限定をもった状況と個人を対象とするものであり、その意味で日常レベル、人の視線のレベルの問題とその解決を志向したものである。この日常的な問題への応用可能性はこの方法が様々なレベルで使用が可能であるということからきている。それはワープロの指とキーの対応から、机の上に置かれた物体の配置と人の手腕等の動きといったマイクロなレベルから、室内の配置と人の動き、さらには学校、工場全体の部屋や物体の配置と生徒や従業員の動き、学校、施設、店舗を含む地域社会とそこでの住民の行動、よりマクロなレベルでは都市の配置やそれに伴う交通網と人の動きといった多様なレベルが想定される。このようなそれぞれのレベルで解決されるべき多くの課題にこの方法は対応できるようになっている。

問題行動の探究への効用は、この方法が異なる組織、地域、さらには「文化」を行動レベルで比較することが可能であるという特徴からも指摘できる。例えば都市とか農村といった地域概念はそこに存在する行動セッティングの種類・性質やそれへの参加者の差異をみることによりはじめて行動科学的な概念となりうるのである。この点に関して Barker は上述のように、Midwest とイギリスの Yoredale と比較し、Midwest の住民の行動機会の多いことを指摘している。また大学図書館と市立図書館をその行動セッティングの差異とそれの利用者参加者の違いからみることができ¹⁰⁾。「文化」の差異は社会科学ではよく論じられるが、こうした行動セッティングの差異にもとづく行動レベルの比較というよりも、現象的あるいは感覚的な比較が多くなされる傾向がある。例えば民族間の信仰心はこの方法では、関連する行動セッティン

10) この点に関して我々は大学図書館と市立図書館に関しての観察から、その行動セッティングを(1)手続きの場(2)預け入れの場(3)くつろぎの場(4)探究の場(5)収納の場(6)積極的使用の場(7)手洗いの場(8)依頼の場(9)自習の場(10)活用の場(11)特殊研究の場と分類し、それぞれの参加者数、時間的な変化を比較した(山田真基子 1983 行動生態学的な観察についての一考察、佐藤泰 1985 行動生態学的な観察の一試行=図書館の機能についての考察=、いずれも岩手大学人文社会科学部行動科学研究室特殊実験調査報告書 [筆者細江指導])。これらの比較から使用形態の目的集約的=目的拡散的使用の分化や図書館自体のおかれている環境状況との係わりなど、この方法によらなければ十分あきらかにならない問題点や展望を確認することができた。

グの存在, その設置間隔, それへの参加者の属性等の比較, さらには直接関係しない他の行動セッティングとの比較, また個人が参加する全体の行動セッティングの中での宗教的なセッティングの位置づけの比較として把握することが可能である。しかし, こうした比較のためには現象的なタイプ (Pheno-type) ではなく発生的タイプ (Geno-type) の発見とそれによる比較が行われなければならない。

環境や組織の重視は一見すると個人差や personality という観点の軽視が予想されるが, すぐに見てきたように行動セッティングはその両者が複合した状態を前提とした概念であり, 個人の側に視点をおいてもこの方法はさまざまな可能性をもっている。たとえば生徒を彼らが係わる複数の行動セッティング (学校内に限定しても, また学校以外を含めても) への参加の仕方のみにより personality 差を設定することも可能である。例えば特定セッティングのみに限定的に参加する人, ほとんどのセッティングに参加する人などといった行動傾向差を見ることができよう。また特定行動セッティングへの参加の動機, 能力において個人差をみることも可能である。また定立型に厳密に従い行動をする人, かなり許容幅を持って行動する人, さらには逸脱する人といった視点も可能である。心理学が設定してきた personality 特性や知能などは状況とかかわりなく存在するのではなく, 本来, 対象や関係を想定した概念なのである。つまり, 心理学では個人差は一般に個人の内的過程にあると考えようとするが, この方法では, それぞれの状況, ここでは行動セッティングの中で示された行動差として見ることができると考えているのである。また前述した自己制御システムへの係わり方の差異は特定行動セッティングでの地位役割の違いという面から参加者を分化することを可能とするのである。

さてこのようなこの理論・方法の効用は総括的に見れば社会心理学・心理学方法上の展望にあるといえる。それは先ずこの方法が, 社会心理学が本来想定している立場, つまり心的内的過程による説明といったマイクロな視点と社会・文化の文脈による説明といったマクロな視点のどちらにも偏らない両者を重ね合わせることができる中間的な立場に明確に位置しているということである。この中間的な位置こそは人の日常的な視点であり, その意味で応用的な可能性を本来持っていることになる。またこの理論は, すぐに見てきたように, こうした中間的な範囲からより個人的なレベルにも, またよりマクロなレベルへも展開を可能としている。さらに方法的には観察法に示されるような質的方法が重視されていることが指摘できる。もちろんこの方法も全体としては多くの量的データを必要としているが観察 (参与観察を含む), 多くの記録文書の利用, さらには面接といった質的方法が重要な役割を果たしている。現在の社会心理学でややもすると等閑視されがちなこれらの方法を基本的なものとしているこの立場は多くの示唆を与えるものである。こうした観察などの方法は特殊な研究手法というよりは日常生活で普通の人が行っている方法でもある。このことはこの方法は行動セッティングの設定を含め高度な専門的技術を要するものではなく, それぞれ組織や地域社会で一定の問題設定をすれば比較的容易に実施可能な方法でもあるということができる。

7 行動セッティングの特徴を明らかにする実習例

ここでは行動セッティングの特徴を明らかにしていくために Wicker (1979a) によりながら実習例を示す。このことは, この方法への具体的理解を助けるとともに, この方法が上述したようにかならずしも高度な技術を必要としないことを明らかにすることになる。

A. 行動セッティングの特徴を明らかにする実習例

1. 行動セッティングの選定

働いたり多くの時間を過ごす場所のようによく知っているセッティングを選ぶ。実習として選ぶ場所は一般の人が近づけるところがよい。つまり家や寮のような居住セッティングでない方がよい。適当と思われるセッティングの例としては、生協食堂、プール、事務所、教室、クラブの会議、図書館、ボーリング場、ガソリンスタンド、コンビニ、バスケットの試合などである。注意すべきことは、何階もあるデパートや一日中続く陸上競技会のような非常に広い場所や複雑な場所を選択しないことである。選択する場所は、観察する人がよく把握できるような程度の大きさがよい（小さい方が簡単）。

2. 選定した行動セッティングの属性

①名称 ②所在 ③その行動セッティングをよく知るようになった理由

④範囲

- a. 週のうち作用する日数、時間：つまりその行動セッティングが開設されている間隔
- b. セッティングの物理的範囲の簡単なスケッチ

⑤構成要素

- a. セッティング内にいる人の数、属性
- b. セッティング内にいる人とその空間的位置
- c. セッティング内で重要な物体とその位置、形態

⑥プログラム

- a. 人がセッティングで基本的活動を実行するときの、その人の一連の適切な活動の流れ
- b. 人の活動とセッティング内の重要な物体の係わり
- c. セッティング内のすべてのポジション従事者の基本的な義務

⑦類似形態

人の活動がセッティング内の物理的特徴や物体と調和したり「似通っている」例

⑧ポジションの階層

セッティングへの影響や責任という観点から、セッティング従事者が占めているポジションを最小の勢力・最小の責任のものからの序列をする。

*役割を評定する尺度例

1. 傍観者 2. 聴衆あるいは招かれた客 3. メンバーあるいは顧客
4. 実際の活動をする係員（割り当てられた任務をもっている人）
5. 協同指導者 6. 単独の指導者

⑨人の交換可能性

ある人が別な人と置き換わることが可能であるポジション

⑩最小人数

- a. セッティングの基本的な活動を実行するのに必要な最小人数
- b. 必要最小限の人間が存在するとしたとき、その人たちがしなければならない仕事

⑪. 最大人数

- a. セッティングが人間をそれぞれ与えられた任務のあるポジションに調整することができ、そしてなおそのプログラムを実行できる最大人数
- b. そのセッティングの各ポジションでの適切な人数の推測

⑫適度な人数

- a. そのセッティングの人数の過不足 [人手不足・人手過剰・適切]
- b. 適度な場合の人数

⑬セッティングから受ける満足

様々な役割の人間がセッティングから受け取る満足、利点、報酬

⑭自己制御システム

観察された問題点の種類

- a. 感受メカニズム：問題点を始めに感知した人，物体
- b. 執行メカニズム：問題点を取り扱った人，物体
- c. 維持メカニズム：問題点に関して実際に行われたこと
 - ・逸脱対抗メカニズム：問題点の発生源を変化させ，修理させ，修正させた方法
 - ・拒否メカニズム：問題点に関して責任をもつ人あるいは物体の排除
- d. 実際に行われた活動の効果，さらに必要とされた活動
- e. さらに付け加えられた活動とその種類

B. 行動セッティングにおける類似形態の欠如についての分析の実習例

1. 行動セッティングで類似形態が欠如している例の選定

こうした例の極端なものは解決されているのでこれをさがすのは簡単ではない。

次のような例が参考になる。

- ・行動セッティングが，そのある空間や近くの空間での工事・改装，修復の間も，作用し続けている場合。
- ・行動セッティングが，その設備の程度よりもあまりに多くの従事者をいつもかかえている場合。
- ・行動セッティングがしろうとや不適任者によって準備されたり運営されている場合。
- ・行動セッティングのプログラムが信頼できない構成要素に依存している場合。
- ・ある行動セッティングが別目的あるいは別の人のために企画された空間を使用している場合。
- ・行動セッティングが複数の目的のためにデザインされている場合。
- ・行動セッティングが新しい場所に移ったばかりの場合や一時的に違う場所に移った場合。

2. 選定した行動セッティングの属性

①名称 ②所在

③このセッティングにおける類似形態の欠如を気が付くようになった理由

3. 類似形態の欠如の分析

①類似形態の欠如についての記述

a. セッティングのプログラムの要約

- ・人がセッティングの基本的活動を実行する際の一連の活動の系列順序
- ・人の活動のセッティングの重要な物体との係わりの仕方

b. 類似形態の欠如がもたらすセッティングの円滑な作用への干渉の仕方

②類似形態の欠如の与えるインパクト

- a. セッティングの従事者の内，類似形態の欠如によって最も影響を受ける人
- b. その人たちがうける影響
- c. 最も影響されない従事者
- d. セッティングの従事者が問題点に気が付いていない程度（観察からの推測）

③問題点の多様な特徴

問題点の変化可能性，又変化することの副作用

④解決可能性

- a. 類似形態の欠如の現実的解決法の策定
- b. 上記解決策以外の解決策
- c. aの解決法が優位な理由

⑤セッティング従事者への面接

- a. 従事者の問題点への認識の程度

- b. 上記の解決策への従事者の反応
- c. 面接によって問題点について付け加えられた情報

⑥最終的な解決方法の設定

8 生態学的心理学の方法にもとづく調査例

ここでは筆者らが係わってきた生態学的心理学の方法にもとづく調査例を報告し、この方法の理解と応用可能性を探っていく。すでに大学図書館と市立図書館の行動セッティングの比較や学校規模についての調査などは一部示してきたが、ここでは「店舗における購買者の購買行動」と「工場規模による行動セッティングの分析」の二つを報告する。

1. 「店舗における購買者の購買行動」¹¹⁾

購買行動はさまざまなレベルで研究されるが、ここでは店舗での行動を定立型 (standing pattern) の視点で分析する。対象は東北地方のA市のある商店街のほぼ同規模の12店舗 (喫茶、玩具、薬局、化粧品、民芸品、乳製品、書籍、写真、鉄器、時計、靴、鞆) である。予備調査段階で、これらの店舗の購買者の購買行動を自由に観察し、4種類の定立的な行動型を確認した。それは商品への「注視」：店舗外あるいは店舗内で立ち止まって商品または商品目録を見る段階 (段階Ⅰ)、商品の「移動」：商品を手にとってその外側だけを見る段階 (段階Ⅱ)、「内容検索」：商品を手にとってその内側 (内容) を見る、あるいは実際使用する段階 (段階Ⅲ)、商品の「購入」：商品を実際に買う段階 (段階Ⅳ) である。この分類の設定自体に多くの予備的観察が必要であり、分類枠の設定まで試行的な枠組を繰り返す必要がある。本調査では最終的にこの4種類の段階でおおむね購買者の行動はまとめることができた。この枠組みにもとづき、購買者の行動を分析した。対象は店舗の物理的空間に入った人、店舗の物理的空間の外から商品に触れた人¹²⁾、店舗外から商品を「注視」した人を対象とした。また、対象者は店舗および店員との対応による行動のみを典型的に明らかにするために、単独な購買者のみを対象とした。対象サンプルは午前8時30分～午後8時までの開店時間の開始時間から5人目毎の該当者を毎時3人計36名、全店舗432名を対象とした。観察期間は観察者の都合で同時に行えないので、11月～12月の1か月の平日に順次行われた。さてこれらの4種類にわけられた段階で購買者の購買の全過程を分析するとそれぞれの段階全てを経過する行動：「注視」→「移動」→「内容検索」→「購入」(4段階行動)と、「注視」→「移動」→「購入」といった「内容検索」が伴わない行動(3段階行動)と、「移動」「内容検索」を経ず「注視」→「購入」に向かう行動(2段階行動)があることがわかる(図3)。これらは対象店舗の店舗特性と基本的には対応する(図4)。喫茶は2段階行動が全てであり、注視が購買(利用行動)に移行する。3段階行動が中心となった店舗は薬、鉄器販売、写真である。これらは内容検索が困難な商品が多く、購買者は外面からの観察や店員からの指示や情報からこれらを確認するか、それが不要でない商品という

11) 本調査はある商店街から筆者(細江)が依頼された購買行動の調査の一環として行われたものである。ここで報告するのは高橋洋1990「観察法を用いた行動場面 (Behavior setting) に関する一研究 (岩手大学人文社会科学部行動科学研究室卒業論文 [筆者指導])」にまとめられたものにもとづいている。なお観察は高橋が中心に行った。

12) 商店街店舗特性から通路近くに商品が並べられており、通行者はそこから店舗に入らず商品に触れる場合も出てくる。

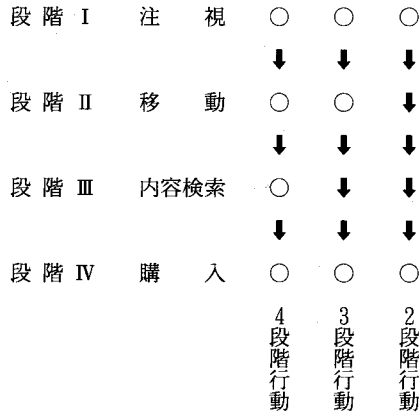


図3 段階区分と購買行動の推移

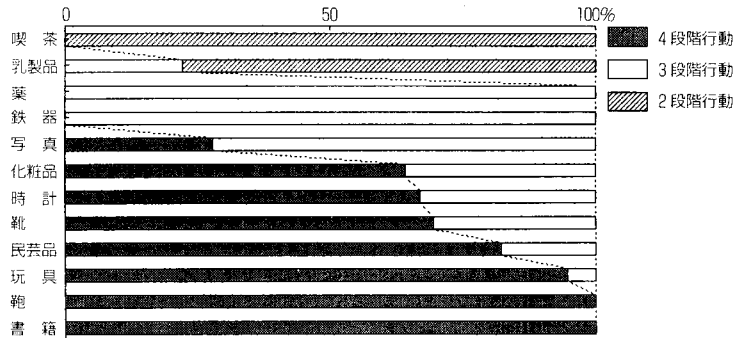


図4 店舗別購買行動 (4・3・2段階行動分布)

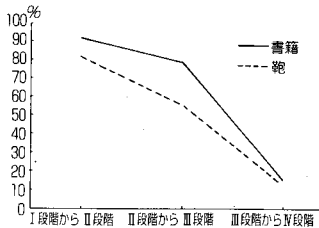


図5 購買行動の変化率 (I→II→III→IV)タイプ①

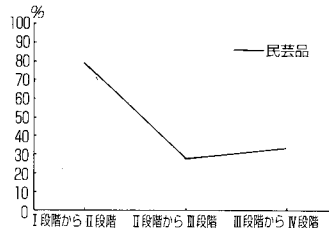


図6 購買行動の変化率 (I→II→III→IV)タイプ②

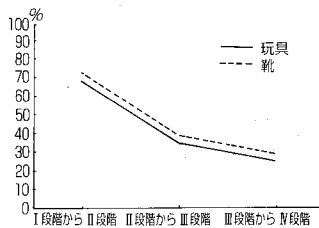


図7 購買行動の変化率 (I→II→III→IV)タイプ③

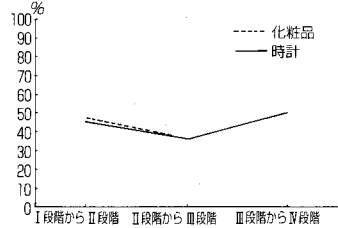


図8 購買行動の変化率 (I→II→III→IV)タイプ④

ことになる。4段階行動は購買行動の一般的形態であり対象店舗の7店舗もこれが中心となる。このような段階数の差異は購買者が購買行動に意思決定をする分岐点の差異でもある。2段階行動では「注視」が購買者の行動を大きく決定されるので店舗の外部に向かって購買準備者に内容を検索できる情報の提示が意味をもち、3段階行動では店舗内に入った購買者に対して内容検索に関連したどのような対応をするかが大きな影響を与える。最も一般的な4段階行動ではそれぞれの段階での店舗での物的(商品配置等)や店員の対応が購買者を購買という最終段階への移行を促進したり、抑制したりすることになる。それ故にどの段階が購買者の行動を変化させたかが問題となる。この4段階行動が中心となる7店舗について前段階から次の段階への移行する率(%)をもとにグラフ化したものが図5~8である。つまりこれらの店舗は図に示したように4タイプにさらに分ける。①書籍、鞆にみられるように商品に触れる率が高いが、触れた人のかかなりの人が内容検索をするが購入段階で大幅に落ち込むタイプ(図5)。②民芸品にみられるように注視者の多くが商品に手をふれるが手を触れるだけでより積極的な行動である内容検索に至る比率は急激に減少するが内容検索段階に至ったものの3割以上が購買に移行するタイプ(図6)。③玩具、靴に見られるように、上記2タイプ同様注視から移動は約7割をこえるが、内容検索段階での移行は①より低く、また購買段階の移行の減少率も大きいタイプ(図7)。④ほぼ同じ変化率となった化粧品、時計は注視から移動への変化率が他のタイプに比べて最も低いが内容検索ではほぼ半数が残り、検索した人の購買行動への移行率は最も高く商品との接触が購買行動にかなり重要な役割果たしていることがわかるタイプ(図8)。これらのタイプは特定店舗の人的物的条件と対応し、購買行動への促進・抑制がどの段階でもっとも影響を与えているのかがさらに確認され、また同種の条件との店舗と比較することによって、それぞれの店舗の問題点を明らかにすることが可能となる。本報告では方法上の問題に主眼がおかれ、こういった個々の問題については触れる余裕がないが、こうした問題の基礎的枠組みとしてはここで示した段階区分やタイプは十分応用可能なものであると考えている。

2. 工場規模と行動セッティング¹³⁾

次に地場産業でその規模が小規模から中規模まで多様である東北地方のB市の鉄器工場を素材としたこの方法の適応例を見てみる。ここでは従業員5人以下の工場が38,6~20人が12,21~50人が8,51~110人が2と多様な規模に別れている。60工場の中から専従従業員1名のA所,3名のB所,C所,D所を,8名のE工場,9名のF社,26名のG社を対象とした。予備調査段階を経て8月末から12月始めまで行った各対象工場での観察回数は全体で65回であった。これらにもとづきそれぞれの工場の行動と環境の類似形態のリストを作成する(表1のリスト例参照)。これらのリストは相互依存性に関する尺度:K-21尺度¹⁴⁾で比較し21未満の数値をとったものを同一の行動セッティングとしてまとめた。これらの行動セッティングは必ず

13) 本調査は筆者(細江)が東北地方B市の地場産業の人材確保事業に係わった一環として考案されたものである。ここで報告するものは内山久子1994「Ecological Psychologyの視点による行動場面の研究(岩手大学人文社会科学部行動科学研究室卒業論文[筆者(細江)指導])に」基づいている。なお長期にわたる観察は内山が中心に実施した。

14) 取り出された行動場面候補をまとめいく方法で、一つの行動セッティングとしてまとめた方がよいか独立した方がよいかを測定される尺度。比較に使われる項目は、①行動の相互依存②構成員の相互依存③リーダーの相互依存④物理的空間の相互依存⑤時間的近接の相互依存⑥使用する事物の相互依存⑦行動の種類の類似の相互依存の7項であり、それぞれ7ポイント尺度で依存性が高いほどK値は低く合計が21以上(最大49)であれば別々の行動セッティングとみなされるBarker(1968),Wicker(1968・1979b)。

表1 行動・環境の類似形態のリスト例 (B所)

No.	行動	場所	機械・設備・道具・材料	人
1	型挽き	d	べこ・実型・木型・荒目の砂・中真土・真土・はじろ	主人
2	文様押し	d	机いすD・型・絵杖	主人
3	肌打	d	机いすD・型	主人
4	型焼き	e	火堂・型	主人・奥さん
5	塗型	b	机いすB・火室・焼型・筆・土壤黒鉛	奥さん
6	しんこを混む	b	机いすA・しんこ型・筆・竹ベラ・金ベラ・砂・はじろ・石灰粉	奥さん
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
⋮	略	⋮	⋮	⋮
47	漆を塗る	e	着色台・ガス火・漆・ミゴバケ・鉄瓶	主人
48	さびをかえる	e	台・さび・ハケ	奥さん
49	つるをかえる	f	台・つるしめ・つる	Hさん
計	49	6	49	3人

表2 対象工場別 行動セッティング等の数

	人数	人数幅	行動場所の数	作業日 日数	類似形態 数	行動セッティング (BS)の数	BS/ 一人
①A 所	1	1~3	4	30	46	9	9
②B 所	3	3	5	10	49	16	5.3
③C 所	3	2~4	4	17	61	14	4.7
④D 所	3	3~4	4	4	22	8	2.7
⑤E工場	8	8~9	5	2	39	20	2.5
⑥F 社	9	9	5	2	40	18	2
⑦G 社	26	21~26	14	1	63	24	0.9

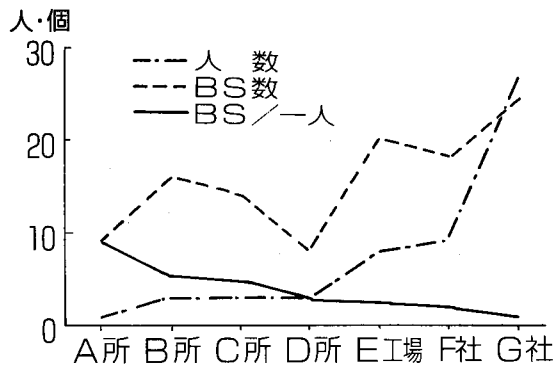


図9 工場別人数・BS数・BS/1人

しも物理的なものに取りかこまれているわけではない。例えばA所ではそれぞれの場に置かれた別々の眼鏡が微妙に境界をつくり、それを含んで行動セッティングが形成されている。7つの対象工場の類似形態数と行動セッティング数は表2のとおりである。図9に示すように、行動セッティングの数と人数は比例せず、結果的に一人あたりの行動セッティングの数はA所が9、G社が0.9と逆比例する。また人数は製品完成の流れのなかで、表2に示すように1日で全ての行動セッティングが平行して行われているG社から30日のサイクルを必要とするA所ま

なされている。それはひとつには人手不足を補うように工夫された器具などの物理的環境であり、もうひとつは学校とはことなる時間的な流れの調整である。すでに見たように1月のサイクルから1日のサイクルまで多様な調整が可能である。ここではその詳細を述べる余裕がないがこうした調整が製品の性質・製法¹⁵⁾や個人の関与の在り方と対応しつつ、あるときは別製品に挑戦したり、生産量を変動させながら工場は自己調整を行っているのである。このように鉄器製造工場として共通の性質をもちながらそれぞれ行動セッティングの差異や係わる人を比較することによって共通な問題や個別の工場の状況などを具体的に確認できることになる。個別的問題はここで示すことはしないが、この手法が十分な方法的な応用可能性をもっていることは調査過程全体の中で明らかにされた。

おわりに

人と人との影響関係は man(men) to man(men) thing(s) であり、thing(s) を前提として人は人と係わり、この thing(s) を取り扱うことにより、その影響関係は具体的な内容を持つことを既に安倍 (1956) が指摘しているが、社会心理学が対人関係の心的形式を追及しその現実的内容から遊離してきた批判に応える方法のひとつとして、ここでみてきた行動セッティング論とそれにもとづく生態学的心理学は可能性を多く有しているといえる。Wicker (1979a) は生態学的心理学について展望し、行動セッティングは有益な生態学的ユニットであり多くの研究の可能性があり、また多様な調査ストラテジーを持っている指摘している。さらに人類のかかえている問題点を解決するために行動セッティングに介入することは適切なことであるとしてコミュニティー心理学や組織心理学との対応を示唆している。地域住民の行動の機会といった視点は地域福祉サービスの立案における行動セッティング論の活用を十分期待させる。Manning theory はさまざまな組織の問題や過疎過密地域の問題と係わる。地域の観光開発や防犯計画までその適用の可能性は多く、この方法はさらに再評価されるものと思われる。

(1994年8月31日)

文 献

- 安倍淳吉 1956 社会心理学 共立出版
 Argyle, M. 1992 *The Social Psychology of Every Day Life*, Routledge
 Barker, R. G. 1965 Explorations in Ecological Psychology. *American Psychologist* 20-1 1-24
 Barker, R. G. 1968 *Ecological Psychology: Concepts and Methods for Studying the Environment of Human Behavior*, Stanford U. P.
 Barker, R. G. & Gump, P. G. 1964 *Big School, Small School: High School size and Student behavior* (安藤延男監訳 1982 大きな学校, 小さな学校——学校規模の生態学的心理学—— 新曜社)
 Gibson, J. J. 1979 *The Ecological Approach to Visual Perception* (古崎敬他訳 1985 生態学的視覚論サイエンス社)
 Furnham, A. F. 1988 *Lay Theories: Everyday Understanding of Problems in the Social Sciences* (細

15) 同じ鉄器製造でも個人の一貫した関与が中心となる手作りの「焼型」製法と工程の細分化が可能な「生型」製法といった製法の違いが行動セッティングの在り方に係わってくる。ここではそうしたものを分析する基礎的枠組みをみたものである。

- 江達郎 監訳 1992 しろうと理論：日常性の社会心理学 北大路書房)
- Heider, F. 1958 *The Psychology of Interpersonal Relations* (大橋正夫訳 1978 対人関係の心理学 誠信書房)
- 細江達郎 1983a フィールドリサーチ論：青年期の社会心理学的接近をめぐって 青年心理 37 148-190
- 細江達郎 1983b フィールドリサーチ論：社会心理学的フィールドリサーチの実際 青年心理 38 150-198
- Lewin, K. 1943 *Psychological Ecology* [Cartwright, D. ed. 1951 Lewin, K. Field Theory in Social Science 170-187] (猪股佐登留訳 1959 社会科学における場の理論 誠信書房 170-187)
- Mercer, C. 1975 *Living in Cities* (永田良昭訳 1979 環境心理学序説 新曜社)
- 三井 宏隆 1989 「社会心理学の危機」を巡る論争について 実験社会心理学研究 25-2 171-179
- Mischel, W. 1968 *Personality and Assessment* (詫摩武俊 監訳 1992 パーソナリティの理論=状況主義的アプローチ= 誠信書房)
- Moos, R. H. 1976 *THE HUMAN CONTEXT: Environmental Determinants of Behavior* (望月衛訳 1979 環境の人間性 朝倉書店)
- Ross, L. 1977 The Intuitive Psychologist and his shortcomings: Distortions in the Attribution process. In L. Berkowitz (ed.) *Advances in Experimental Social Psychology* V. 10 173-220
- 佐藤郁哉 1992 フィールドワーク：書を持って街に出よう。新曜社
- 佐々木正人 1994 アホーダンス 新しい認知の理論 岩波書店
- Stephan, C. W., Stephan, W. G. & Pettigrew, T. F. 1991 *The Future of Social Psychology*, Springer-Verlag
- Webb, J. E., Campbell, D. T., Schwartz, R. D. & L. Schrest 1966 *Unobtrusive Measures: Nonreactive research in the Social Sciences.*: Rand McNally
- Wicker, A. W. 1968 Undermanning, Performances, and students' subjective experiences in behavior settings of large and small high school. *JPSP* 10(3) 255-292
- Wicker, A. W. 1979a *An Introduction to Ecological Psychology*: Cambridge UP (安藤延男監訳 1994 生態学的心理学入門 九州大学出版会)
- Wicker, A. W. 1979b Ecological Psychology: Some Recent and Prospective Developments *American Psychologist* 34-9 755-795